

尚綱大学短期大学部 教育情報及び財務情報の公表について

学校法人尚綱学園は、公共性の高い法人としての社会的責任を踏まえ、情報公開に取り組んでいます。当学園に対する皆様方のご理解とご協力を得ることを目的として、下記の基本情報を公開いたします。

1. 教育研究上の基礎的な情報

- (1) 各学科の名称及び教育研究上の目的
- (2) 専任教員数等
- (3) 校地・校舎等の施設その他の学生の教育研究環境
- (4) 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用
- (5) 教材購入費

2. 修学上の情報等

- (1) 教員組織、各教員が有する学位及び業績
- (2) 3つのポリシー
 - ①入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）
 - ②教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）
 - ③学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）
- (3) 入学定員、入学者数、収容定員、在籍者数
- (4) 入学者数、退学者数、除籍者数、中退者数及び留年者数の推移
- (5) 社会人学生数、留学生数及び海外派遣学生数
- (6) 卒業者数、就職希望者数、就職者数、就職率及び進学者数他
- (7) 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業計画
- (8) 学修の成果に係る評価及び卒業の認定に当たっての基準
- (9) 学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援
- (10) 教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報

3. 財務情報

- (1) 平成 27 年度財産目録
- (2) 平成 27 年度貸借対照表
- (3) 平成 27 年度資金収支計算書
- (4) 平成 27 年度事業活動収支計算書
- (5) 平成 27 年度事業報告書
- (6) 監事の監査報告書
- (7) 平成 27 年度決算の概要報告
- (8) 平成 28 年度の学生生徒数の状況

1. 教育研究上の基礎的な情報

(1)各学科の名称及び教育研究上の目的

<総合生活学科>

生活の営みを総合的かつ合理的に学び、主体的に家庭や地域の生活を創造する能力と実践的態度を身につけ、男女共同参画社会において個性と能力を発揮できる人材の養成を目的とする。

<食物栄養学科>

食を通じて人の健康づくりに貢献できる栄養士を育成するため、専門分野の講義、実験・実習により、栄養士養成課程としての基礎及び応用理論を学び、幅広い知識・技術・能力を身に付けた実践力のある人材の養成を目的とする。

<幼児教育学科>

未来を担う子どものこころ、遊び、発達、健康などについて基礎的総合的な理解を深め、健やかで豊かな生活、遊びを導く実践的な保育者としての技量を養い、子どもに信頼され慕われる人間性豊かな幼稚園教諭、保育士の養成を目的とする。

(2)専任教員数等

学科ごとの専任教員数（平成 28 年 5 月 1 日現在）

（単位 人）

学科名	教授		准教授		講師		助教		計		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
総合生活学科	1	1	2	0	0	2	1	0	4	3	7
食物栄養学科	1	1	1	0	1	1	0	2	3	4	7
幼児教育学科	3	1	6	4	0	2	0	0	9	7	16
計	5	3	9	4	1	5	1	2	16	14	30

法令上必要な専任教員数（平成 28 年 5 月 1 日現在）

学科名	専任教員数					設置基準で定める最低専任教員数	
	教授	准教授	講師	助教	計	(イ)	(ロ)
総合生活学科	2	2	2	1	7	4 (2)	5 (2)
食物栄養学科	2	1	2	2	7	4 (2)	
幼児教育学科	4	10	2	0	16	10 (3)	
計	8	13	6	3	30	23 (9)	
備考	1. 「設置基準で定める教員数」欄の(イ)は、短期大学設置基準第 22 条別表第 1 のイ「学科の種類及び規模に応じ定める専任教員数」を示す。 2. 「設置基準で定める教員数」欄の(ロ)は、短期大学設置基準第 22 条別表第 1 のロ「短期大学全体の入学定員に応じ定める専任教員数」を示す。 3. 「設置基準で定める教員数」欄の(イ)及び(ロ)における教員数の()内は、短期大学設置基準第 22 条別表第 1 のイの備考第 1 号に定める教授数(専任教員数の 3 割以上)を表す。						

専任教員の学科ごとの年齢別の構成（平成28年5月1日現在）

（単位 人）

学科名	職 位	70歳以上	60歳～69歳	50歳～59歳	40歳～49歳	30歳～39歳	29歳以下	計
総合生活学科	教授	0	1	1	0	0	0	2
	准教授	0	0	0	2	0	0	2
	講師	0	0	0	2	0	0	2
	助教	0	0	0	0	1	0	1
計		0	1	1	4	1	0	7
食物栄養学科	教授	0	1	1	0	0	0	2
	准教授	0	0	0	1	0	0	1
	講師	0	0	0	0	2	0	2
	助教	0	0	0	0	2	0	2
計		0	1	1	1	4	0	7
学科名	職 位	70歳以上	60歳～69歳	50歳～59歳	40歳～49歳	30歳～39歳	29歳以下	計
幼児教育学科	教授	0	1	3	0	0	0	4
	准教授	0	0	3	4	3	0	10
	講師	0	0	0	1	1	0	2
	助教	0	0	0	0	0	0	0
計		0	1	6	5	4	0	16

教員一人当たり学生数（平成28年5月1日現在）

（単位 人）

学科名	専任教員数 〔助手を除く〕	収容定員	在籍学生数			教員一人当たり 学生数	
			1年	2年	計	収容定員 基準	在籍学生 数基準
総合生活学科	7	200	45	49	94	28.6	13.4
食物栄養学科	7	160	78	79	157	22.9	22.4
幼児教育学科	16	300	151	151	302	18.8	18.9
合 計	30	660	274	279	553	22.0	18.4

収容定員充足率（平成28年5月1日現在）

（単位 人）

学科名	収容定員	在籍学生数			収容定員充足率 （%）
		1年	2年	計	
総合生活学科	200	45	49	94	47.0
食物栄養学科	160	78	79	157	98.1
幼児教育学科	300	151	151	302	100.7
合 計	660	274	279	553	83.8

専任教員と非常勤教員の比率（平成 28 年 5 月 1 日現在）

学科名	専任教員数	専任教員による担当授業科目数	非常勤教員による担当授業科目数	専任教員と非常勤の比率（%）	
				専任	非常勤
総合生活学科	7 人	54	26	67.5	32.5
食物栄養学科	7 人	37	25	59.7	40.3
幼児教育学科	16 人	53	25	67.9	32.1
計	30 人	144	76	65.5	34.5

(3)校地・校舎等の施設その他の学生の教育研究環境

校地・校舎の概要

本学は熊本市の武蔵ヶ丘と九品寺に 2 つのキャンパスを有している。

武蔵ヶ丘キャンパスは熊本市中心部から車で 30 分程の熊本市北東部のベッドタウンに位置し、大学の文化言語学部、短期大学部（幼児教育学科）及び短期大学部附属こども園がある。キャンパスの周辺は閑静な住宅街と豊かな自然環境に囲まれており、また、キャンパスの中央には手入れの行き届いた庭園が配置され、学生の憩いの場となっている。武蔵ヶ丘キャンパスの校舎配置図は図 1 に、校舎の概要は表 1 に示すとおりである。

一方、九品寺キャンパスは熊本市の中心部に位置しており、学園本部、大学の生活科学部、短期大学部（総合生活学科、食物栄養学科）、高等学校及び中学校がある。九品寺キャンパスの校舎配置図は図 2 に、校舎の概要は表 2 に示すとおりである。

校地面積は 59,560 m²で短期大学設置基準上必要な面積（6,600 m²）の約 9 倍を確保している。また、校舎面積は 8,706 m²で短期大学設置基準上必要な面積（5,950 m²）の約 1.4 倍を確保している。

運動場・体育施設

幼児教育学科のある武蔵ヶ丘キャンパスには体育館、運動場及びプールがある。体育館のメインアリーナはバスケットボールコートをもつ 2 面とれる広さがあり、その他に卓球場や多目的ホール、部室棟などの設備がある。武蔵ヶ丘キャンパスの体育館、運動場及びプールは、いずれも大学の文化言語学部との共用である。一方、総合生活学科及び食物栄養学科のある九品寺キャンパスには、敷地内に大学の生活科学部や高等学校などの校舎があり、平成 25 年 1 月には、イベント等を行うことができる尚綱アリーナ（高等学校・中学校と共用）が完成した。

課外活動の状況及びその施設

九品寺キャンパス（総合生活学科・食物栄養学科）では、「ボランティアサークル」、「熊本名所情報発信クラブ」などの文化系サークルや、「尚綱スポーツクラブ」、「フラダンス部」などの体育系サークルがある。クラブ室を 4 つ設けており、クラブ室が無いサークルは学生ホールや教室を利用したり、学外に出向いて活動している。学生会は、学生総会、役員会等の運営を行い、同キャンパス内にある大学学生会（4 年制）と新入生歓迎行事、学園祭等の企画、運営、実施にあたっている。

武蔵ヶ丘キャンパス（幼児教育学科）には、「ダンス部」、「バスケットボール部」、「バドミ

ントン部」、「総合スポーツ同好会」の体育系サークルと、「美術部」、「学生奉仕団」の文科系サークルがある。体育系サークルは体育館の空き時間などを利用して活動し、部室は大学と共用の課外活動部室 10 室と大学 1 号館内に美術部室などがある。

休息を行う環境、その他の学習環境

	九品寺キャンパス	武蔵ヶ丘キャンパス
学生の休息のための施設・空間	学生ホール約 100 席 自動販売機 1 台	短大部学生ホール約 100 席
保健室、カウンセリングルーム	保健室 養護教諭が常駐する ベッド数 3 床 車椅子 1 台 カウンセリングルーム	保健室 養護教諭が常駐する。 AED1 台 ベッド数 4 床 車椅子 1 台 カウンセリングルーム
食堂	学生食堂 営業時間 11:00～14:00 座席数約 195 席 自動販売機 2 台	学生食堂 営業時間 11:00～14:00 座席数約 300 席
売店など	コンビニエンスストア (Y ショップ) 営業時間 8:00～17:00 ジュースなどの自動販売機 3 台 コピー機	売店営業時間 10:00～16:00 ジュースなどの自動販売機 4 台 ATM (肥後銀行) 1 台 コピー機

図1 武蔵ヶ丘キャンパス校舎配置図

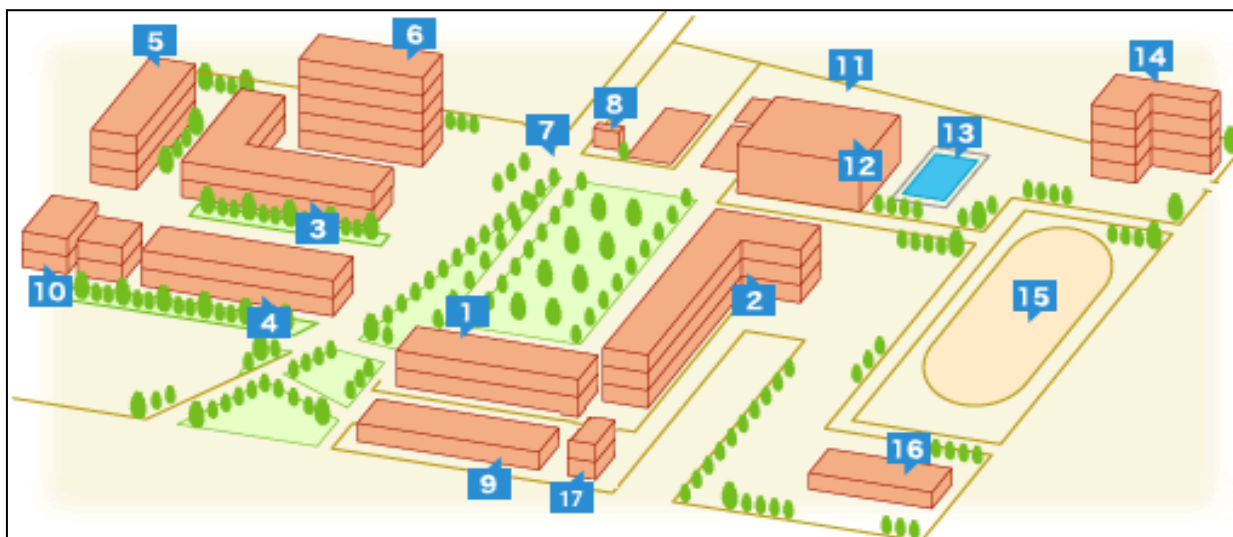


表1 武蔵ヶ丘キャンパス校舎概要

1	大学1号館	1F 第1～第4講義室、学生会室 2F 研究室、文化言語研究室、第5講義室、第6講義室、美術室 3F 第7、第8講義室、研究室、イングリッシュラウンジ					
2	大学2・3号館	1F 第3演習室、第9～第12講義室 2F 図書館分館 3F 情報処理教室、生物学教室					
3	短大1号館	1F 図工教室、研究室、学生会室、学生支援課、就職課、学生ホール 2F ピアノ個室、音楽教室、研究室、リトミック室					
4	短大2号館	1F 第1～第3講義室、実習指導室、研究室、尚綱子育て研究センター、雑誌閲覧室 2F ピアノ個室、第5講義室、パソコン自習室、研究室、視聴覚室					
5	短大3号館	1F 調理実習室 2F 第6講義室 3F ピアノ個室					
6	管理棟	1F 事務室、保健室、応接室 2F 講師控室、役員室、学長室、尚綱子育て研究センター、地域連携推進センター、カウンセリング室 3F 研究室、卒論演習室 4F 会議室、研究室 5F 大講義室					
7	正門	8	守衛室	9	学生食堂・売店 学生ホール、茶室	10	短大ロッカー室
11	駐輪場	12	体育館	13	プール	14	如蘭学寮
15	グラウンド	16	幼稚園園舎	17	大学ロッカー室		

図2 九品寺キャンパス校舎配置図

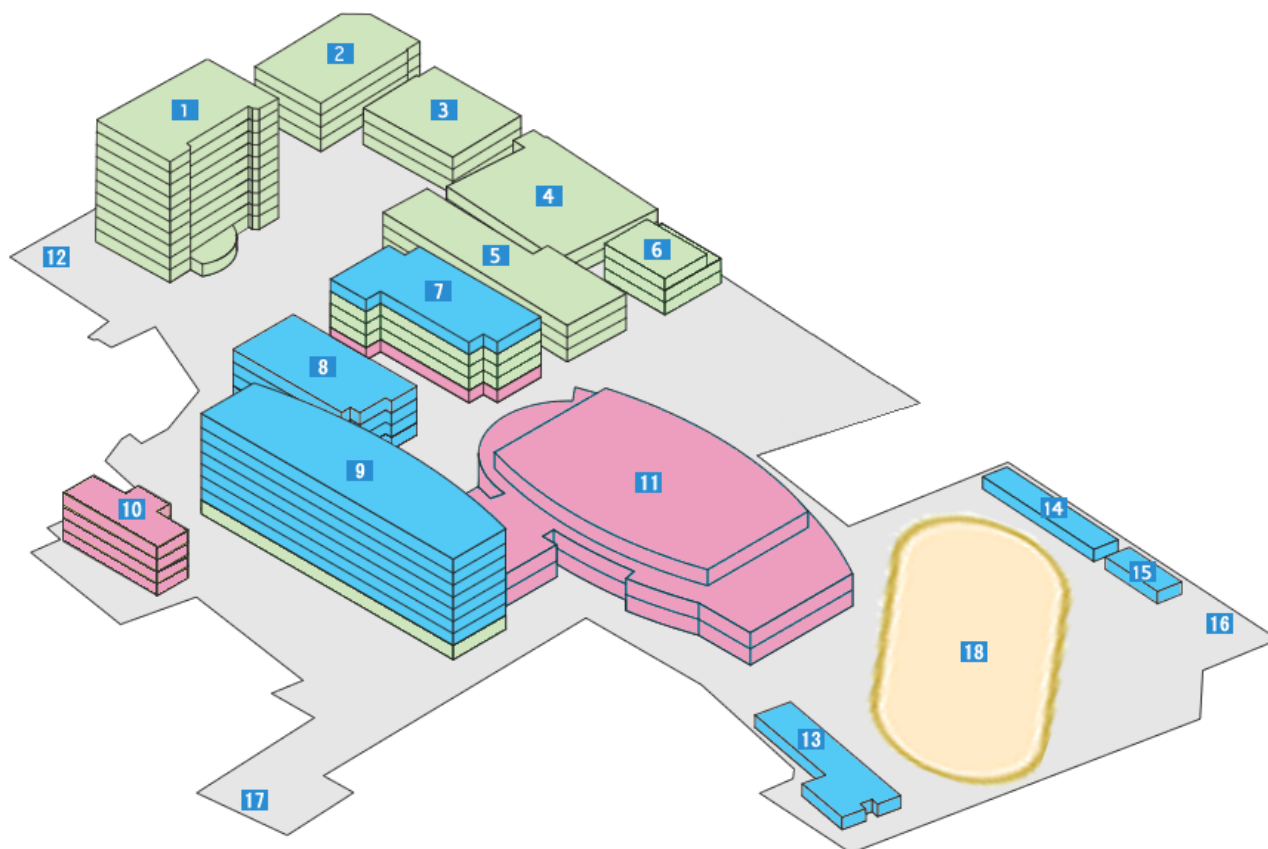


表2 九品寺キャンパス校舎概要

1	1号館	1F 学生食堂・売店 2F 大学事務局長室、1201号室、カウンセリング室、保健室、尚綱食育研究センター 3F 1301号室、1302号室、大会議室、小会議室 4F 栄養調理実習室、更衣室 5F 栄養教育実習室、リフレッシュルーム、卒業研究室 6F 臨床栄養実習室、食品加工・食品学実習室 7F 精密機器室、卒業研究室 8F 教員室 9F セミナー室、教員室 10F 大講義室							
2	2号館	1F 給食経営管理実習室、試食室 2F 解剖生理病理臨床栄養研究室、共同実験室 3F 情報処理教室 4F 講堂							
3	3号館	BF 地下会議室 1F 入試センター、講師控室、学生支援課、就職課、就職資料室・就職指導室 2F 3201号室、3202号室 3F 3301号室							
4	4号館	1F 第2調理実習室、学生ホール、尚綱サポートセンター 2F デザイン演習室、衣服実習室、研究室							
5	5号館	BF 卓球室、学生ロッカー室 1F 事務室、第3調理実習室 2F 学長室、大学企画室、5201号室、染色実習室、研究室 3F 生化学・食品化学実習室、食品衛生・解剖生理実習室、研究室							
6	6号館	1F 食品加工実習室、学生会室、クラブ部室 2F 6201号室、6202号室、研究室							
7	学園管理棟	BF 会議室、和室 1F 学園事務局、理事長室、常務理事室、会議室 2F 管201号室 3F 管301号室、管302号室 4F 管401号室、管402号室 5F 中学多目的室							
8	中高校1号館	中高校事務室他							
9	中高校2号館	1F 図書館本館 2F 中高校図書館 3F～8F 中高校教室他	10	尚綱学舎 (セミナーハウス)	11	尚綱アリーナ	12	正門	
13	弓道場	14・15	部室棟	16	北門	17	南門	18	グラウンド

情報サービス施設

武蔵ヶ丘キャンパス、九品寺キャンパスともに情報処理教室が設置されている。座席数は武蔵ヶ丘キャンパスの情報処理教室が 84 席、九品寺キャンパスの情報処理教室が 90 席である。また、学生用パソコン 2 台の間に中間モニターを設置し、教員用パソコンから画面情報や資料などを表示させて、学生が講義内容を理解するのに役立っている。いずれのキャンパスの情報処理教室も可動式のパーティションを設置しているので、教室を分割して利用することも可能である。

情報処理教室は、授業のない時間帯には学生に開放しており、学生は自習室として利用することも可能である。

その他の情報サービス施設としては、武蔵ヶ丘キャンパスにおいては、就職資料室に 3 台、図書館に 10 台、学生ホールに 2 台のパソコンを、また、九品寺キャンパスにおいては、就職資料室に 3 台、図書館に 12 台、学生ホールに 10 台のパソコンを学生用に設置している。

図書館

「尚綱大学図書館」は、九品寺キャンパスの「本館」と武蔵ヶ丘キャンパスの「分館」からなる、大学及び短期大学部専用の図書館である。本館と分館の規模及び蔵書数を表 3 と表 4 に示す。

表 3 図書館の規模

図書館の名称	面積 (㎡)			学生閲覧室の 座席数 (a)	学生 収容 定員 (b)	収容定員に対 する座席数の 割合(%) (a) / (b) × 100	備 考
	全体	閲覧 スペース (内数)	書庫 スペース (内数)				
尚綱大学図書館本館	1,246	724	223	64	660	9.7	生活科学部 300 名 短期大学部 360 名
尚綱大学図書館分館	894	239	485	100	600	16.7	文化言語学部 300 名 短期大学部 300 名
計	2,140	963	708	164	1,260	13.0	

表 4 図書館の蔵書数 (平成 28 年 5 月 1 日現在)

図書館の名称	図書の冊数 (冊)		定期刊行物の種類		視聴覚資料の 所蔵数(点数)	電子ジャーナルの種類 (種類)
	図書の冊数	開架図書の 冊数(内数)	内国書	外国書		
尚綱大学図書館本館	123,389	80,598	609	28	1,710	0
尚綱大学図書館分館	102,700	97,358	1,722	52	3,865	0
計	226,089	177,956	2,331	80	5,575	0

<アクセスマップ>

武蔵ヶ丘キャンパス



■ 尚綱大学・同短期大学部	
文化言語学部：文化言語学科	短期大学部：幼児教育学科
■ 尚綱大学短期大学部附属こども園	
■ 尚綱大学図書館分館	

J R	J R 豊肥本線 「武蔵塚駅」下車徒歩 20 分
バス	交通センター B ホーム 清水方面行き (新地団地經由泉ヶ丘行き、杉並台行き) 「尚綱大学前」下車徒歩 1 分
タクシー	交通センターより約 25 分

〒861-8538 熊本県菊池郡菊陽町武蔵ヶ丘北 2-8-1

T E L 096-338-8840

F A X 096-338-9301

九品寺キャンパス



■ 尚綱大学・同短期大学部

生活科学部：栄養科学科 短期大学部：総合生活学科、食物栄養学科

■ 尚綱高等学校

■ 尚綱中学校

■ 尚綱大学図書館本館・中学高等学校図書館

J R ・ バス	J R 鹿児島本線 熊本駅下車 熊本都市バス第一環状線 大学病院方面まわり「尚綱校前」下車、徒歩1分 (逆まわりにご注意下さい)
市電	市電(健軍行)「九品寺交差点」下車、徒歩1分
タクシー	交通センターより10分

〒862-8678 熊本市中心区九品寺2丁目6-78

T E L 096-362-2011

F A X 096-363-2975

(4)授業料、入学料その他の大学が徴収する費用（平成 28 年度）

学科	入学金	授業料	施設設備資金	初年度合計
総合生活学科	220,000 円	620,000 円	220,000 円	1,060,000 円
食物栄養学科			270,000 円	1,110,000 円
幼児教育学科			220,000 円	1,060,000 円

※ 入学金は初年度のみ、納付となります。

※ 授業料、施設設備資金は年額であり、前期、後期に分納できます。

※ 各種免許、資格取得希望者の学外実習に要する費用、実験実習費、その他保険料（傷害、賠償責任）が別途必要です。

※ 既納の納付金等は、事由のいかんを問わず返却いたしませんのでご注意ください。

ただし、入学金を除く納付金は、入学する月の前月末日までに、文書（本学所定）で入学辞退による返還を求めた場合に限り返却します。

※ 一般入試及び大学入試センター試験利用入試ですでに入学手続きを済ませて、他の学部や学科をもう一度受験して合格した場合、入学金の振替ができます。

(5)教材購入費

本学においては、学生生活 2 年間の必要経費として、授業料、施設設備資金、実験実習費及び傷害保険料等の雑費の他、教科書等の教材費が必要である。その額は、授業内容等により年度によって必要額が異なってくるが、2 年間でおよそ以下のとおり見込まれる。

総合生活学科・・・約 100,000 円 ～ 160,000 円

食物栄養学科・・・約 90,000 円 ～ 110,000 円

幼児教育学科・・・約 70,000 円 ～ 90,000 円

2. 修学上の情報等

(1) 教員組織、各教員が有する学位及び業績

[総合生活学科（ホームページ／教員紹介）](#)

[食物栄養学科（ホームページ／教員紹介）](#)

[幼児教育学科（ホームページ／教員紹介）](#)

(2) 3つのポリシー

①入学者に関する学生受入方針（アドミッションポリシー）

<総合生活学科>

総合生活学科では、「自立して自分らしく生きる」をキーワードに、現代社会に生きる女性としての社会人基礎力、より具体的には“前に踏み出す力”、“考え抜く力”、“チームで働く力”を身につけ、特に情報ビジネス業界、福祉ウェルネス業界、ファッション・インテリア業界などで活躍したい学生を求めています。

具体的には、次のような人を求めています。

- ・ 広く社会で活躍する能力を身に付けるため情報処理技術などを基本から学び、ビジネスやオフィスワークの知識を学びたい人
- ・ 子どもから障がい者・高齢者までの福祉や健康分野に関心があり、実践力と問題解決力を身につけ、積極的に地域に貢献したい人
- ・ アパレルやインテリアに関心があり、生活に根差した美しいデザインの知識・手法を修得し、社会

で活躍したいと考えている人

本学科に入学を希望する人は、社会人基礎力を実践的に学ぶために、高等学校等において基礎学力を有していることを望みます。

<食物栄養学科>

食物栄養学科では、「食物と栄養と健康」をキーワードに食の専門家である栄養士の資格を取得するためのカリキュラムを編成しています。実践力のある栄養士として活躍するための高い知識と技術を身につけ、健康を食の面から支え社会に役立ちたいと思う学生を求めています。

具体的には、次のような人を求めています。

- ・ 人の健康づくりに関心があり、基本から体系的に学びたいと思う人
- ・ 次世代を担う成長期の子どもの対象に食育の推進に貢献したい人
- ・ 疾病の予防と治療のための食事療法について学び、社会で生かし活躍したいと考えている人
- ・ 高齢者をはじめとする福祉の分野で食を通して生活の質の向上を支援したい人
- ・ 食物・栄養・健康に関する幅広い知識と技術を家庭や地域社会の健康管理に役立てたいと思う人

本学科に入学を希望する人は、高等学校等において、生物、化学などの基礎を習得し、コミュニケーション能力を高める国語や英語の基礎学力を身につけておくことを望みます。

<幼児教育学科>

幼児教育学科は、子どものかたわらに寄り添い、子どもの成長、発達を豊かにはぐくむ確かな理論と実践力を身につけた保育者の育成をめざします。そのため子どもの世界に関心と意欲をもって取り組む学生を求めています。

具体的には、次のような人を求めています。

- ・ 子どもが好きな人、子どもの心、生活、遊びに関心をもつ人
- ・ 将来保育の現場に立ち地域・社会に貢献したいと考える人
- ・ 子どもの権利、福祉に関心をもつ人
- ・ 自己表現力を養うとともに、人(子ども・保護者)とのコミュニケーション能力を磨きたいと考える人

本学科に入学を希望する人は、高等学校等において、国語を中心とした表現力やコミュニケーション力等の言語活動に習熟し、集団的活動、社会的体験について可能な限り身につけておくことを望みます。

②教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）

<総合生活学科>

総合生活学科では、地域社会が求める即戦力となる人材育成のために、以下のような方針に基づいてカリキュラム（教育課程）を編成します。

- ・ 広い視野を持ち、人間性を豊かにするため教養科目を設置します。
- ・ 生活の基礎を総合的に学び、将来の進路に必要な専門性を高めるために、専門科目を設置します。
- ・ 社会人基礎力を体系的に身につけるためキャリア科目を設置します。

- ・ビジネス社会に必要な実践的実務能力を身につけるため、オフィスワークやビジネス、情報に関する知識・技術を学ぶ「情報・ビジネス」フィールド科目を設置します。
- ・福祉現場等で必要な課題解決能力を身につけるため、社会福祉全般に関する基礎知識や援助技術、健康に関する専門知識・技術を学ぶ「福祉・ウェルネス」フィールド科目を設置します。
- ・アパレル・ファッション、インテリア業界で求められる創造的思考力を身につけるため、快適な衣環境・住空間のデザインに必要な専門知識・技術を学ぶ「生活デザイン」フィールド科目を設置します。

<食物栄養学科>

食物栄養学科では、栄養士養成課程としての基礎理論と専門分野の実験・実習を学ぶことにより、幅広い知識・技術・能力を身につけた実践力のある人材を養成するため、以下の方針に基づいてカリキュラムを編成します。

- ・食品、調理素材の特性や地域性を生かした献立作成能力と調理技術を身につけた人材を育成します。
- ・疾病の予防と治療のための食事療法を実践できる人材を育成します。
- ・成長期の子どもから高齢者までのライフステージ別の特徴に応じた栄養管理について学びます。
- ・大量調理における衛生管理や対象者の嗜好を配慮した給食の運営について学びます。
- ・健康づくりの担い手として、思いやりと責任感を持った人材を育成します。

<幼児教育学科>

幼児教育学科は、幼稚園教諭2種免許状および保育士資格の養成課程を含む乳幼児の保育教育に関する専門的な知識・技能を身につけ、家庭や保育現場において子どもの将来の幸福を前提としたよりよい実践が可能な人材を育成するため、以下の方針に基づいてカリキュラムを編成します。

- ・保育・教育に関する基本的な理解を深めるため、原理・内容・方法における専門的な知識やこれからの保育教育がどのようにあるべきかを学びます。
- ・子どもの権利、福祉についての見識、問題意識を備えるため、子どもの社会福祉、家庭福祉の専門的な理解を深め、社会的な養護や相談援助・支援のあり方を学びます。
- ・子どもの成長、発達健康について総合的な理解を深めるため、心理発達・臨床、乳児の保育、子どもの食と栄養、言葉の発達などを学びます。
- ・子どもの生活、遊びを育む保育の技能、内容として、音楽や造形の表現、健康・遊び・体育、保育教育の実践、子育て支援などを身につけます。
- ・子どもの心や個性を大切にするため、障害児の保育や子どもを取り巻く環境、子どもの理解という内容を学び、子どもへの関わり方を追究します。
- ・保育の世界、地域社会に関わる態度や意欲を育てるため、幼稚園、保育所、施設における10週間の実習やそのあり方を学びます。
- ・文化・社会や自然・生命に関する知識を広く修めるとともに、さまざまな思考様式や価値を理解し、知を高める主体的な態度・意欲が備わるよう、法律、人権、心理学、体育、情報、

語学など現在の社会生活に必要な幅広い教養を学ぶとともに、すべてのカリキュラムを学ぶ中で真摯な態度・取組が身につくようにします。

③学位授与の方針（ディプロマポリシー）

<総合生活学科>

本学科では、以下の素養・能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生に、「短期大学士（生活学）」の学位を授与します。

- ・文化・社会や自然・生命に関する知識を広く修めるとともに、様々な思考様式や価値を理解し、知を高める主体的な態度・意欲が備わっている。
- ・生活と密接に関連した各分野に関する専門的知識を持ち、複数の観点から現代生活を理解している。
- ・生活技術や情報活用能力を身につけ、効果的に自らのアイデアを表現し、様々な人とコミュニケーションをとることが出来る。
- ・現代生活における様々な問題点に関心を持ち、異なる立場の人びとも協力しながら、行動する意欲を持っている。
- ・生活や社会の問題点を自ら発見・論理的に分析し、自らの価値観および倫理観に基づいて判断することが出来る。

<食物栄養学科>

本学科では、以下の素養・能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生に、「短期大学士（食物栄養学）」の学位を授与します。

- ・文化・社会や自然・生命に関する知識を広く修めるとともに、さまざまな思考様式や価値を理解し、知を高める主体的な態度・意欲が備わっている。
- ・食物、栄養、健康に関する専門的知識を身につけ、複合的な視点から食と健康を理解している。
- ・食を通じて人々の健康の増進・疾病の予防に貢献するための実践的技術を身につけている。
- ・多様化する社会のニーズに柔軟に対応するための豊かな表現力とコミュニケーション能力を身につけている。
- ・食物、栄養、健康に関する諸問題に対してグローバルな視野から興味・関心を持ち、これらを主体的に解決しようとする意欲・態度を身につけている。
- ・多様化・高度化する食物、栄養、健康に関する問題点を発見・論理的に分析し、自らの価値観および倫理観に基づいて解決するための思考・判断能力を身につけている。

<幼児教育学科>

本学科では、以下の素養・能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生に、「短期大学士（幼児教育学）」の学位を授与します。

- ・文化・社会や自然・生命に関する知識を広く修めるとともに、さまざまな思考様式や価値を理解し、知を高める主体的な態度・意欲が備わっている。
- ・保育・教育に関する基本的な理解ができている。

- ・子どもの権利、福祉についての識見、問題意識が備わっている。
- ・子どもの成長、発達、健康について総合的な理解ができています。
- ・子どもの生活、遊びを育む保育の技能、内容を身につけている。
- ・子どもの心や個性を大切にします。
- ・保育の世界、地域社会に関わる態度意欲が備わっている。

(3) 入学定員、入学者数、収容定員、在籍者数

平成 28 年度の学生数の状況（平成 28 年 5 月 1 日現在）（単位 人）

学科名	入学定員	入学者数	収容定員	在籍者数
総合生活学科	100	45	200	94
食物栄養学科	80	78	160	157
幼児教育学科	150	150	300	302
計	330	273	660	553

(4) 入学者、退学者、除籍者、中退者数、中退率及び留年者数の推移

(単位 人)

年度	学科	入学者数	在籍者数 (A)	退学者数 (B)	除籍者数 (C)	中退率(% (B)+(C) / (A)	留年者数
H25 年度	総合生活学科	52	118	4	1	4.2	4
	食物栄養学科	89	168	3	1	2.4	4
	幼児教育学科	161	316	2	0	0.6	4
	計	302	602	9	2	1.8	12
H26 年度	総合生活学科	72	124	6	5	8.9	3
	食物栄養学科	82	169	7	1	4.7	2
	幼児教育学科	159	317	1	2	0.9	1
	計	313	615	14	8	3.6	5
H27 年度	総合生活学科	50	116	4	3	6.0	1
	食物栄養学科	78	157	2	0	1.3	2
	幼児教育学科	155	312	6	0	1.9	2
	計	283	585	12	3	2.6	5

(5) 社会人学生、留学生及び海外派遣学生数（平成 28 年 5 月 1 日現在）

(単位 人)

学科名	社会人学生数					留学生及び海外派遣学生数				
	1 年	2 年			計	1 年	2 年			計
総合生活学科	0	0			0	0	0			0
食物栄養学科	0	1			1	0	0			0
幼児教育学科	4	0			4	0	0			0
合計	4	1			5	0	0			0

※社会人学生数、留学生数は、それぞれ社会人入試、外国人留学生入試によって入学した学生数である。

(6) 卒業者数、就職希望者数、就職者数、就職率及び進学者数他

平成 28 年 3 月卒業生の進路先決定状況（平成 28 年 5 月 1 日現在）

（単位 人）

学科名	卒業者数	就職希望者数	就職者数	就職率	進学者数	その他 （就職を希望しない）
総合生活学科	60	52	48	92.3%	3	5
食物栄養学科	76	66	66	100.0%	6	4
幼児教育学科	154	151	150	99.3%	1	2
計	290	269	264	98.1%	10	11

※詳細参照⇒<http://www.shokei-gakuen.ac.jp/univ/career/data>

(7) 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業計画

平成 28 年度開講授業科目シラバス

[総合生活学科 \(シラバス\)](#)

[食物栄養学科 \(シラバス\)](#)

[幼児教育学科 \(シラバス\)](#)

(8) 学修の成果に係る評価及び卒業の認定に当たっての基準

①学修の成果に係る評価

平成 28 年度開講授業科目シラバス

[総合生活学科 \(シラバス\)](#)

[食物栄養学科 \(シラバス\)](#)

[幼児教育学科 \(シラバス\)](#)

②卒業の認定に当たっての基準（必修・選択科目別の必要単位修得数）

卒業に必要な最低修得単位数は、次のとおりとする。

学科名	科目区分	卒業に必要な 最低修得単位数	修得すべき「必修科目」 の単位数		在学年数
総合生活学科 食物栄養学科 幼児教育学科	教養科目	12	総合生活学科	6	2 年以上在学 すること。
			食物栄養学科	10	
			幼児教育学科	4	
	専門教育科目	50	総合生活学科	18	
			食物栄養学科	27	
			幼児教育学科	27	
	計	62	総合生活学科	24	
			食物栄養学科	37	
			幼児教育学科	31	

③取得可能学位

<総合生活学科>

短期大学士（生活学）

<食物栄養学科>

短期大学士（食物栄養学）

<幼児教育学科>

短期大学士（幼児教育学）

④学位授与数

卒業年月	学科	卒業生数 (学位授与数)
25年度	総合生活学科	61
	食物栄養学科	77
	幼児教育学科	151
	計	289
26年度	総合生活学科	46
	食物栄養学科	82
	幼児教育学科	160
	計	288
27年度	総合生活学科	60
	食物栄養学科	76
	幼児教育学科	154
	計	290

(9) 学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援

①修学に係る支援

クラス担任制

学科単位で各学年にわたり担任制を取り入れ、履修相談、学生生活相談、就職・進路相談等に対応している。出欠状況、単位取得状況等を教務課から各担任に適宜知らせ、担任は年度初めの学生との懇談のほか、個人面談でそれぞれの学生の状況を把握し指導・支援するように努めている。

障がいをもった学生の修学の支援

本学では平成28(2016)年4月に「障害を理由とする差別の解消の推進に関する規程」を制定し、教職員が適切に対応するために必要な事項を定め、学習支援体制を整備している。

障がいの程度は、学生ひとり一人に差があるので、学生支援委員が本人及び保護者から配慮すべき事項を確認し、その事項を全教職員に周知徹底することによって、学習支援体制を確立している。

学習スペースの確保

キャンパス内で学生が快適に学べる環境を提供するため、各キャンパス図書館の閲覧室を学習スペースとして開放している。また、学習スペースの利便性を高めるため、本館には個人学習用のキャレルやグループ学習室を設置し、分館はグループ学習用のスペースと

個人学習用のスペースを分離するという工夫を行っている。

②進路選択に係る支援

本学では、入学年度から年 2 回のキャリアガイダンスを実施して、学生の進路選択を早い段階からサポートしている。また、各学科の授業に組み込んでいる就職指導の時間においても、進路選択についてきめ細やかな指導を実施している。特に、大学への編入学希望者に対しては、進路支援担当教員からアドバイスを行っている。

③心身の健康等に係る支援

学生の健康面については、学生支援課で毎年度初めに全学生を対象に健康診断を行っている。日々の健康相談は、保健室の養護教諭により行い、毎年「学生疲労蓄積度調査」を実施し、その結果を学生個人に知らせるとともに、結果によっては保健室に相談に行くよう勧めている。また、心的支援は養護教諭と臨床心理士の資格を持つカウンセラー（非常勤）により行われている。その他の学生の相談には、各学科の学生支援委員と学生支援課職員がクラス担任と連携を取り、さらにオフィスアワーも活用して細やかに対応している。

④その他学生支援の状況

本学では学生サービス、厚生補導のための組織として学生支援委員会及び各キャンパスに部会を設置し、学生支援課との連携により、学生会行事関係、奨学金関係、健康管理関係、その他福利厚生関係の業務を行っている。

学生に対する経済的な支援として、日本学生支援機構奨学金をはじめとして、地方公共団体や民間団体の奨学金の募集を行い、手続きを行っている。日本学生支援機構奨学金については、年度初めのオリエンテーションで奨学金制度を詳細に説明し応募者を募っている。家庭の事情等の個人情報に十分に配慮しながら、クラス担任による個別面談と学生支援課の担当者による相談や手続きの指導を行っている。最終的な応募者は学生支援委員会で承認を受け申請する。予約奨学生や入学後の新規採用者は年々増加しており、また、家計の急変により 2 年次や 3 年次で新規応募する学生も増加している。地方公共団体や民間団体の奨学金については、それぞれの募集案内を掲示し、希望者にそれぞれの制度を説明して応募させている。

さらに、学生への経済的な援助策として、平成 20 年度に本学独自の「緊急的授業料免除制度」を制定した。この制度は、学生としての修学態度が標準に達していると認められる学生にあって、学資負担者が死亡もしくは被災など不慮の事由により授業料の納付が著しく困難であると認められる者又はこれらに準ずる場合で理事長が相当と認める者を対象とし、各学期分の授業料についてその全額又は一部を免除する制度である。

また、本学では学生サービスに対する学生の意見や要望を把握するため毎年「学生生活に関する実態調査」のアンケートを実施して家庭、経済、学習環境、部活、ボランティアなどの実態と問題点を調査している。アンケート結果は学生支援委員会で各学部・学科別に集計・評価され各学部・学科の教員に配布し、学生支援委員並びに各クラス担任により改善・対応策をとる仕組みになっている。さらに、学内に学生支援委員会による「意見箱」

を設置し、施設・設備の学習環境のみならず、学生生活全般に関する学生の様々な意見や要望を汲み上げるようにしている。

⑤社会貢献活動

本学では、地域社会の生涯学習活動に貢献することを目的として、1990年（平成2年）から尚絅大学と共同で、公開講座を実施している。本年（平成28年）は6講座を開設予定。昨年までの26回の開催で延べ1万7千名余の受講者があり、好評を博している。

なお、夏季休業期間中には各学科の主催で次のような活動を行い、卒業生を含めた社会人の生涯学習への貢献に努めている。

1) 総合生活学科

県内の中学・高校の家庭科担当教員を対象とした夏季研修会

2) 食物栄養学科

地域で活躍している栄養士を対象とした夏季研修会

3) 幼児教育学科

県内の幼稚園・保育所等の教員や保育士を対象としたサマーセミナー

平成26年4月に「尚絅ボランティア支援センター」を開設し、熊本市認知症サポーター講座の受講や、熊本城マラソンボランティア等のボランティア活動を支援し、地域社会に貢献できる人材を育成している。

(10) 教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報

平成28年度開講授業科目シラバス

[総合生活学科（シラバス）](#)

[食物栄養学科（シラバス）](#)

[幼児教育学科（シラバス）](#)

平成28年度カリキュラム

[総合生活学科（ホームページ／カリキュラム）](#)

[食物栄養学科（ホームページ／カリキュラム）](#)

[幼児教育学科（ホームページ／カリキュラム）](#)

3. 財務情報

(1) [平成27年度財産目録](#)

(2) [平成27年度貸借対照表](#)

(3) [平成27年度資金収支計算書](#)

(4) [平成27年度事業活動収支計算書](#)

(5) [平成27年度事業報告書](#)

(6) [監査報告書（平成27年度決算）](#)

(7) [平成27年度決算の概要報告](#)

(8) [平成28年度学生生徒数の状況（平成28年5月1日現在）](#)